

資料3 恒久平和に貢献する万国津梁会議 提言の骨子（案）について

＊国際的な都市間ネットワーク

・グローバル平和都市連帯（韓国済州自治道、フランスのベルダン市、ドイツのオ 107
スナブリュック市、沖縄県の連携）

この中に、中国の都市との連携が重要だと思います。

以前、南京市の南京大学の Liu Cheng（中国に平和学を紹介し、日本平和学会の会員と
交流）をご紹介しましたが、もし引き続き連絡を取るようでしたら、お知らせください。

米中戦争を想定して着々と準備をしている中、都市間ネットワークはとても重要だと思
います。

(1) 世界から見た沖縄の状況を踏まえた平和発信 ・悲惨な沖縄戦を経験し、広大な基地
を有する沖縄からの平和発信

先日お送りした資料に、意見を書きましたが、貼り付けるようにします。

1. 国際ネットワーク構築：国連への働きかけ&NGO の取り組みへの参加を

(1) 米軍基地問題

世界各地に米軍基地は存在しており、国際平和ビューロ(International Peace Bureau: ノ
ーベル平和賞受賞団体)では、様々な取り組みをしている。例えば、次のような取り組みが
ある。

基地閉鎖のための世界行動デー

私たちは、2月23日に開催される「#基地閉鎖のための世界行動デー」に参加するた
め、世界中の個人や団体に呼びかけます。軍事基地を閉鎖するための非暴力行動は、場所
や権限によって異なります。例えば、以下のようなものがあります。

軍事基地での集会や抗議行動

大使館や国会議事堂などの意思決定者の事務所で、政策変更を訴えるデモを行う。基地
の入り口で労働者にチラシを配布する。地元の軍事基地の影響に関するティーチインなど
の教育イベント、基地が阻止、閉鎖、転換された場所での祝賀会。

これらの行動は、人々の意識を高め、軍事基地の閉鎖や転換を促進することを目的とし
ている。

組織作りや資料作りにお困りですか？アクション・ツールキットをご覧になるか、グレ
タまでご連絡ください。 [Action Toolkit: Global Day of Action to #CloseBases](https://www.actiontoolkit.org/)

greta@worldbeyondwar.org までお問い合わせください。

(2) 太平洋平和ネットワーク: Pacific Peace Network

1月18日に、下記のようなズーム会議があり、参加してみました。日本からの参加者は私ひとりだったのですが、他に日本で参加に興味がありそうな方に伝えてほしいと言われました。

台湾、濟州島、オーストラリア、ニュージーランド、フィリピン、ハワイなど、米軍基地問題や米中戦争の危険性などについて交流することができるよう。もし沖縄平和ネットワークなど、どなたかが参加できると良いのではないかと思います。

*** PPN.PacificPeace <ppnpacificpeace@gmail.com>より ***

過去5年間、太平洋平和ネットワークは、太平洋地域で最大の2つの戦争準備軍事演習、すなわちハワイを拠点とする環太平洋合同演習（RIMPAC）とオーストラリアを拠点とするタリスマン・セイバー演習の周辺で活動してきました。これらの演習に参加する国の数は増加しており、現在はNATO諸国に加え、アジア太平洋諸国も参加しています。唯一参加していないのは中国と北朝鮮だけです。

来年度のタリスマン・セイバー演習は、オーストラリアにおけるAUKUSを通じて米軍の拡大を基盤とし、中国に対する攻撃能力を強化するでしょう。

メーリングリストへの登録や、私たちの活動へのより積極的な参加をご希望の方は、詳細をppnpacificpeace@gmail.comまでお送りください。

平和で真に安全な未来に向けて、

パシフィック・ピース・ネットワーク・コアチーム

上記のNGOの国際ネットワークは、米軍基地問題を考え、将来の米中間の戦争を防ぐ上で、重要ではないでしょうか。

（3）基地のない沖縄を想像・創造するには？

玉城知事さんは新基地建設問題では、「国民的議論の機運の醸成、国際社会への情報発信に取り組む」と述べておられますが、とても重要であると思います。あまりにも長い間米軍基地があるため、人々にとって基地がない沖縄を想像することが困難なのかもしれません。

しかし、1980年代ですが、イギリスのグリーンナムコモンでアメリカの巡航ミサイルの配備に危機感を感じた女性たちが、20年近く反対運動をして、核ミサイルは撤去され、その後基地は公園および自然保護区となりました。かつての軍事基地は現在、散策コースや野生生物、過去の軍事利用の名残があり、一般公開されています。ちょうどイギリスに留学していた時に、当時制作されたタペストリーをたくさん見せていただく機会がありました。現在ブラッドフォードの平和博物館に、タペストリーが展示されているようです。こんな歴史を知ること大切ではないかと思います。

平和資料館の国内、海外への発信について

12月に不屈館を訪問し、土地を奪われた人々の粘り強い闘いに、深い感銘を受けました。海外から多くの訪問客がある中、まずこのような資料館があること、そして展示物の多言語での表記をどうするか等を考えることが必要になってきています。これは他の平和資料館でも同様です。

「ヌチドウ宝の家」平和資料館を以前訪問し、もっと海外で知ってもらうことが重要であると思いました。その後、下記の本で紹介しました。

[Life is Treasure House in Japan](#) = ヌチドウ宝の家平和資料館 / Kazuyo Yamane.
(Peace Education From the Grassroots / Ian Harris 編. Charlotte (North Carolina) : IAP, 2013)

今後様々な取り組みができそうですが、できることから取り組んでいくと良いと思います。